

—夏季大学雑感—

第19回夏季大学「新しい気象」講座雑感

札幌市青少年科学館 渡辺 辰治

第19回夏期大学「新しい気象」は、去る7月25・26日に開催し、今年も熱心な方々の受講をいただきました。

1日目は、札幌市青少年科学館で「山の気象入門」(講師：札幌管区気象台技術部長 村松 照男 氏)、「天気図の見方から最近の予報技術」(講師：(財)日本気象協会北海道支社気象情報部 高野 昌明 氏)の講義を行いました。

村松講師は、季節ごとの山の気象について説明いただきました。また、平地と山の気象の違い、本州の山々と道内の山との気候条件の違いなど、登山をされる方のお役に立つ講義をいただきました。

高野講師は、古くは「観天望氣」の時代から近年のコンピューターによる数値予報までの歴史と、天気図の見方について詳しく説明いただきました。

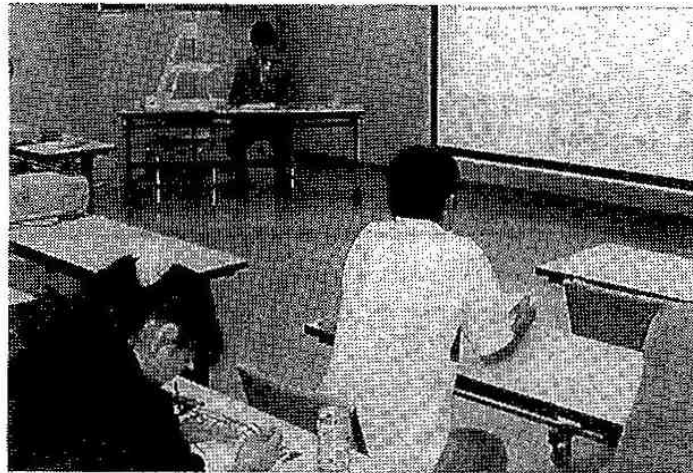
2日目は、北海道大学低温科学研究所で「流氷と気象 —オホーツク海が育むもの—」(講師：北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設教授 青田昌秋 氏)、「氷河と気候 —地球温暖化により世界中の氷河は消滅に向かうか?—」の講義を行いました。

青田講師は冬の使者「流氷」について、生みの親はどこか?また、地球温暖化により流氷は今後どうなるかをわかりやすく講義をいただきました。

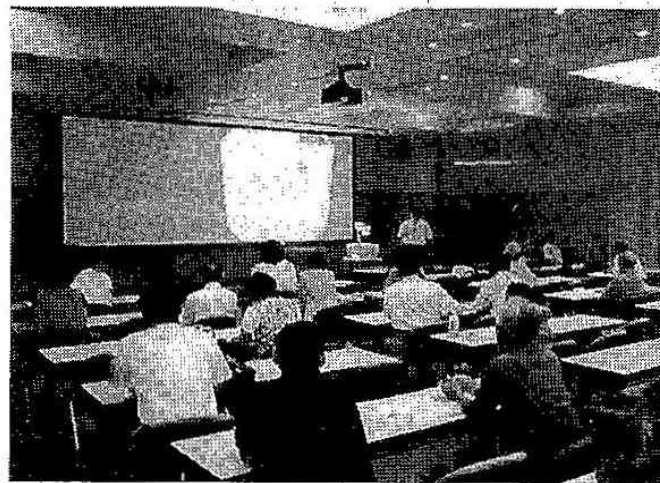
成瀬講師は、世界の氷河の消長と海面変動の関係、地球温暖化による氷河の消長、とりわけ南極の氷床の消長により海面変動がどう移り変わるかを講義していただきました。

来年度も、多数の方に受講いただけるよう時宜にかなった話題を取り上げていく予定です。ご参加をお待ちしております。

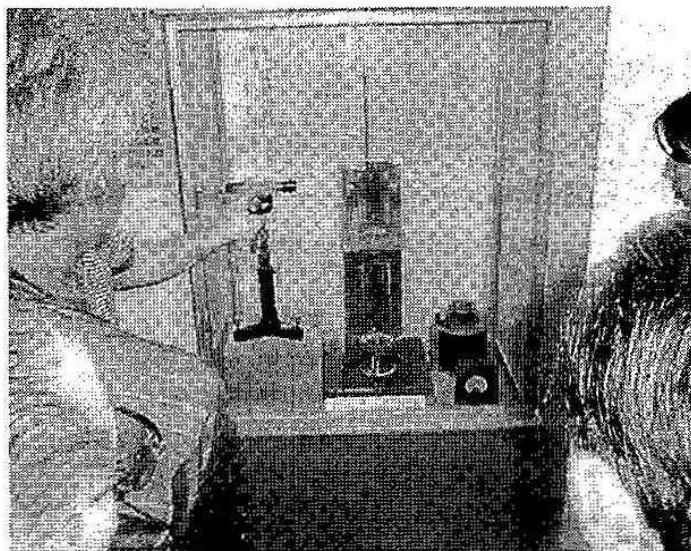
最後になりましたが、今回の講座開講にあたりましてご協力いただきました日本気象学会北海道支部の皆様、会場の準備や見学にご協力いただきました北海道大学低温科学研究所の皆様、この紙面をお借りしまして厚くお礼いたします。



受講風景（札幌市青少年科学館）



受講風景（北海道大学低温科学研究所）



見学風景

（北大低温研中谷宇吉郎博士が人工雪の研究に使用した実験装置）